

自主防災活動について

1 自主防災組織の紹介、立ち上げ

自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域住民が共に協力して、自主的な防災活動を行う組織です。

平時には、避難のための地域の体制づくりに取り組みます。防災知識の普及啓発、防災訓練、地域の防災安全点検の実施、防災資機材の整備・点検などを行います。

いざ災害が起こった時には、住民が力を合わせて避難誘導や避難の声かけ、初期消火、負傷者の救出・救護、さらには避難所の運営などを行います。



自主防災組織を立ち上げよう

自主防災組織は、地域住民が組織の結成に合意し、規約、組織、活動内容を定めて立ち上げます。立ち上げにあたっての手続きについては、岡山市危機管理室に相談してください。なお、自主防災組織は地域の防災活動を効果的に行える規模が望ましいことから、岡山市では町内会や連合町内会を単位として結成されています。



なぜ自主防災組織は必要なの？

阪神・淡路大震災では倒壊した建物に閉じ込められた人たちの多くが、近所の人によって助けられました。

交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発した火災などで、自治体や消防、警察などは、同時に全ての現場へ向かうことができませんでした。

そのため、救出活動を担ったのは、地域の住民の皆さんだったのです。

こうした教訓から、地域住民が連携して地域の被害を最小限に抑えるため、自主防災組織の設立に向けた動きが活発になりました。

あなた自身とあなたのまちを守るため、自主防災活動へ積極的に参加しましょう。



2 平常時の活動

災害は、突然起こります。いざというときにしっかりと対応できるよう、平常時からさまざまな準備をしておくことが大切です。

まずは必ず行いたい活動（基本）

逃げるための「声かけチーム」をつくる

- 逃げるときに、誰と誰が、誰に声をかけるのか、組み合わせを決めておく。
- いつ、どこに、どうやって避難するのか一緒に話し合う。
- 日ごろから交流をして、お互いに様子を知っておく。

つぎに行いたい活動（発展）

逃げるための「地図」をつくる

- 危険個所の確認をする。
- 地域の防災マップを作る。
- 避難先、避難経路を複数決めておく。



逃げるための練習をする（防災訓練）

- 避難先まで避難経路を歩いてみる。
- どこにどうやって避難するのか、実際にやってみる。



命を守る知識を増やす（防災学習）

- 町内会で防災の講習会を開催して、避難の際に役立つ知識を増やす。
- 町内旅行で防災施設へ見学に行く。



その他にも・・・

- 防災資機材の整備や点検
- 啓発のための広報誌の発行
- 消火訓練、炊き出し訓練、避難所運営訓練 など



自主防災組織への支援制度

自主防災組織の活動を支援する制度があります。詳しくは、岡山市危機管理室（086-803-1082）までお問い合わせください。

3 自主防災活動について

災害時の活動

災害発生からの時間経過と自主防災活動（地震のとき）

※ 7、8ページも参照

経過	状況（例）	自主防災活動【自助・共助】（例）
	地震発生	
1～2分後	揺れがおさまる	
3分後		避難の支援・誘導
5分後		隣近所で助け合い
10分後～数時間	火災発見 家屋の倒壊発見 負傷者発見	初期消火活動 救出活動 負傷者の応急救護・搬送
～避難所閉鎖まで	避難生活	避難所の運営

災害発生からの時間経過と自主防災活動（風水害・土砂災害のとき）

※ 9、10ページも参照

警戒レベル ※警戒レベル3からは 岡山市が発令	行動を促す情報（例） ※気象庁や国、県が発表	自主防災活動【自助・共助】（例）
警戒レベル1	早期注意情報	最新の気象情報に注意
警戒レベル2	洪水注意報 大雨注意報など	自主防災活動の役割分担や連絡体制を確認 避難所や避難のタイミングなどを再確認
警戒レベル3 高齢者等避難	洪水警報 大雨警報 氾濫警戒情報など	①要配慮者の避難の支援・誘導 ②早めに避難を開始するよう呼びかけ ③避難者による避難所運営
警戒レベル4 避難指示	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報など	①早急に命を守る行動を取るよう可能な 範囲で隣近所で相互に声かけ ②各自が避難所や近隣の安全な場所への避難 ③各自が屋内安全確保（垂直避難）
警戒レベル5 緊急安全確保	大雨特別警報 氾濫発生情報など	各自が命を守る行動を取る

避難所の運営

避難所は、「被災により自宅で生活ができなくなった場合」や、「災害によって被害を受けるおそれがある場合」などで、避難を必要とする人を受け入れる施設です。近年の大規模な地震災害の教訓から、行政主体の避難所運営は難しいことが明らかとなっており、避難所の良好な生活環境確保の観点からも、避難者自らによる主体的な運営が求められています。このため、行政と住民が連携して避難所運営訓練を行うなど、災害時に避難所を円滑に運営するための体制整備を進めておくことが重要です。

避難所運営で
知っておいて
ほしいこと

避難者はお客様ではありません

避難所は被災者を中心に運営します。みんなで協力し合い、1日も早く以前の生活に戻ることを目指しましょう。避難所の運営には、男女両方が参加し、特定の性別や年齢などによって、役割が固定されることのないようにしましょう。



避難者は避難所の外にもいます

避難者は避難所にいる人だけではありません。車中・テント生活者など、避難所以外の場所に滞在する人にも支援が必要です。



避難者の中には配慮が必要な人がいます

避難所には、高齢者・障害のある人・妊産婦・子ども・外国人・性的マイノリティの方など、様々な立場や価値観を持った人がいます。専用スペースの確保など、健康やプライバシーへの配慮をしましょう。

女性や子どもの視点から避難所の環境づくりをしましょう

女性や子どもに配慮することで、多くの人が安心して過ごすことができる環境が維持できます。また、避難所での女性や子どもへの暴力や性犯罪防止、プライバシーの確保のため、トイレや更衣室・授乳室などの設置場所などに配慮するほか、避難所全体で防犯意識を高めるなど、安心して過ごせる環境づくりに取り組みましょう。



健康維持は衛生への配慮から

ライフラインの途絶や集団生活といった条件の避難所では、感染症、食中毒等のリスクが高まります。このため、トイレの衛生対策をはじめ、うがい、手洗いの励行など、発災直後から衛生管理に徹底して取り組む必要があります。

避難所利用者登録票について

災害時、避難所での安否確認や集団生活をスムーズに行うため、「避難所利用者登録票」を記入して、避難者の名簿を作成します。岡山市危機管理室のホームページにも掲載してあります。

「避難所利用者登録票」は、世帯（家族）ごとに記入します。あなたはご家族のことも書けますか？誕生日や、普段飲んでいる薬の名前、容量を覚えていますか？自分のことでもわかっているようで、わかっていないことがあるものです。家族のこととなるとなおさらです。災害時に困らないためにも、記入できるようにしておきましょう。



表面

裏面

【様式1】 太線枠内の赤字は避難者が記入 ※ 受付者が「受付番号」を記入して避難者に渡す（世帯）（人数）

記入例	避難所利用者登録票 表面		避難所名	受付番号
	ひなんじょりようしやとうろくひよう 避難所利用者登録票		ひなんじょめい 避難所名	1-3
記入日	〇〇年〇〇月〇〇日(〇〇)		記入者氏名	日本 太郎
住所	〒〇〇〇 - 〇〇〇〇 岡山市〇〇区〇〇1丁目2-3		自治会・町内会名	マスカット町内会
電話	(〇〇〇) 〇〇〇 - 〇〇〇〇		自宅の被害状況	全壊 / 半壊 / 一部損壊 全焼 / 半焼 (床に浸水)
携帯電話	(〇〇〇) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇		流出/その他	流出/その他()
FAX	(〇〇〇) 〇〇〇 - 〇〇〇〇		避難所	<input checked="" type="checkbox"/> 避難所
メール	〇〇〇〇 @ 〇〇.〇〇.〇〇		テント(避難所敷地内に設営)	<input type="checkbox"/> テント(避難所敷地内に設営)
その他連絡先(親戚など)	〒〇〇〇 - 〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇区〇〇町〇〇-〇 〇〇アパート〇〇室 岡山 花(長女) (〇〇〇) 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇		車両(避難所敷地内に駐車)	<input type="checkbox"/> 車両(避難所敷地内に駐車)
避難所を利用する人(避難所以外の場所に滞在する人も記入)			避難所以外の場所	<input type="checkbox"/> 避難所以外の場所 (自宅 / 他())
氏名	生年月日・年齢	性別	体温/栄養状態	けがや病氣・障害・アレルギーの有無、妊娠中、使用できる言語など特に配慮が必要なことに○
代表者	ふりがな 日本 太郎	大昭/平/令 〇年〇月〇日 (66 歳)	男	36.4℃ 無() 有()
ご家族	ふりがな 日本 愛子	大昭/平/令 〇年〇月〇日 (60 歳)	女	36.2℃ 無() 有()
	ふりがな 日本 一郎	大昭/平/令 〇年〇月〇日 (91 歳)	男	36.0℃ 無() 有()
	ふりがな	大昭/平/令 年 月 日 (歳)		℃ 無・有() 有()
	ふりがな	大昭/平/令 年 月 日 (歳)		℃ 無・有() 有()
ペットの状況	<input type="checkbox"/> 飼っていない <input checked="" type="checkbox"/> 飼っている→右欄へ		種類(頭数)	同行希望(ペット台帳に記入)
自家用車(避難所に駐車する場合)	〇〇〇〇		犬(1)、ネコ(1)	<input checked="" type="checkbox"/> 同行希望(ペット台帳に記入) <input type="checkbox"/> 置き去り <input type="checkbox"/> 行方不明
	色	ナンバー		
	シルバー	〇〇300	さ〇〇-〇〇	

最重要項目!

- 持病
- アレルギー
- 普段飲んでいる薬

避難所利用者登録票 裏面

- ＜避難者記入＞ ※太線の枠内
- ・詳細な情報を「その他特記事項」に記入してください。(けがや病氣、基礎疾患、障害、アレルギーの有無、妊娠中、幼児や高齢者の紙オムツ、ミルク、哺乳瓶、使用できる言語(または日本語が理解できるか)など)とくに配慮が必要なことを記入する。)
 - ＜運営者記入＞
 - ・受け入れ先欄の場所に「チェック」し、詳細は備考欄に記入する。
 - ・「その他特記事項」の記入もれや、不十分なところがあれば記入する。
 - ＜登録時＞
 - ・運営() 担当は、記入者(避難者)とともに表裏面の記載を確認する。
 - ・安否確認への対応(公開・非公開)個人ごとに○がついているか確認する。
 - 受け入れ先

受け入れ先(滞在先)	場所	<input checked="" type="checkbox"/> 避難所(具体的な場所: 体育館の南東エリア、音楽室など) <input type="checkbox"/> 車 両(避難所敷地内に駐車) <input type="checkbox"/> テント(避難所敷地内に設営) <input type="checkbox"/> 避難所以外の場所(自宅/その他())
	備考	犬、猫は運動場西側の体育倉庫で飼育する
その他特記事項		
日本一郎は、紙オムツのMサイズを使用しています。 日本太郎の高血圧の薬は: 「アダラート」を毎食後1錠服用しています。		
その他事例		
乳児: ミルク・哺乳瓶、紙オムツ: Sサイズ 息子: たまごアレルギー、母親が「アドレナリン自己注射器」を持参している。		
国籍: アメリカ		

＜転出・退出後＞

「退所届」受付後に記入し、「退所届」と合わせてファイルに綴じること。

退所届	受付日	年 月 日 ()
	受付番号	

- ・世帯(家族)ごとに記入して、総合受付に提出してください。
- ・ご記入いただいた情報は、食料や物資の配給や健康管理などの支援を行うため、避難所運営や被災者支援のために必要最低限の範囲で共有します。
- ※1: 一緒に避難していれば○をつける。
- ※2: 安否の問い合わせがあった場合に、住所(〇〇町〇〇丁目まで)と氏名、ふりがなを公開してもよいか個人ごとに必ず確認してください。

自主防災活動について

4 要配慮者について

大きな災害が発生したとき、自力で避難することが困難な高齢者や障害者などの要配慮者は、深刻な被害にあいやすく、こうした方々の安全を守るためには、隣近所をはじめとする地域での助け合い、支え合いが不可欠です。

要配慮者とは

災害時に自分の身を守るための適切な行動が取りにくく、手助けが必要な人のこと（高齢者・障害のある人・傷病者・妊産婦・乳幼児・外国人など）



要配慮者の特性を踏まえた対応

例えば…

視覚に障害のある人

避難所内の案内を行い、トイレや水道などの場所を確認してもらいましょう。定期的な放送による情報の周知や、周囲の避難者に、情報を読み上げる等の支援をしてもらいましょう。

聴覚に障害のある人

重要な情報は必ず文字で掲示したり、伝達したりするようにしましょう。

知的障害のある人／発達障害のある人

抽象的な表現を用いると理解が困難となることがあるため、具体的な表現で伝えましょう。文書で情報を伝えるときは、ひらがなや簡単な表現、イラストや図を使って、わかりやすく伝えましょう。

乳幼児

プライバシーに配慮して、授乳やおむつ替えをする場所を確保しましょう。同じような家族が集まって過ごす場所の確保や、夜泣きの際に外へ出るための動線の確保を検討しましょう。

肢体に障害のある人

介助をするときは、本人の意向を確認したうえで、行いましょう。



日頃からの準備

日頃からのコミュニケーションを

災害時の支援活動をスムーズに行うためには、要配慮者とのコミュニケーションを日頃からとっておくことが大切です。



要配慮者へやさしい環境づくり

車いすでも避難路は通れるか、放置自転車などの障害物がないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの避難伝達方法などはあるかなどを点検し、要配慮者に対応した環境づくりをしましょう。



一緒に防災訓練に参加

要配慮者と一緒に防災訓練を行い、災害が起きた時の安否確認の方法や、避難を支援する体制など、具体的な支援内容を決めておきましょう。

「避難行動要支援者名簿」について

避難行動要支援者とは、災害時に自ら避難することが困難な要配慮者のうち、特に支援を要する人です。岡山市では、要介護認定3以上の方や身体障害者手帳1・2級を所持する方などに、同意書を送付して同意が得られた方について「避難行動要支援者名簿」を作成し、地域の避難支援等関係者に提供しています。詳しくは、岡山市危機管理室までお問い合わせください。

～個別避難計画を作りましょう～

「個別避難計画」とは、災害が発生したときに、要配慮者を誰が支援し、どこへ避難させるかなどを、要配慮者ご本人と、支援する人とが話し合っておいて避難支援プランのことです。

一人ひとりの特性を考慮しながら、それぞれの地域で計画を作成します。

計画の様式は任意ですが、避難の支援をする人（団体名でも可能）と、緊急連絡先（家族・親戚・知人・近所の方など）を記載しておきます。また、避難場所、避難経路、避難方法などを記載しておくことで、よりスムーズな避難行動につながります。

作成した計画は、本人、その家族、支援者などが保管し、情報を共有します。

ただし、個人情報等を目的外に使用されないよう、適切に管理しなければいけません。

詳しくは、岡山市危機管理室までお問い合わせください。

